

対象国の条件:

研修コース番号:201984744-J002

案件番号:201984744

主分野課題:自然環境保全/生物多様性保全

副分野課題:

使用言語:英語

案件概要

生物多様性新戦略計画(2010)では「生態系サービスを維持し、全ての人に必要な利益を提供し、生物多様性が評価・保全され、賢明に利用される」世界を実現するというビジョンが示された。その達成には、現状把握と情報の蓄積、共有と事実に基づく取組み、関係者間の合意形成が求められる。本研修では、GIS・リモートセンシング・データベース・調査、住民参加を促す手法や考え方を学び、自国での実践の基礎とすることを目的とする。

目標/成果	対象組織/人材	
<p>【案件目標】 研修への参加者・機関が、生物多様性保全と保全地域の管理に必要な基礎技術の習得や仕組みを理解し、課題解決に向けたアクションプランを作成することができる。</p> <p>【成果】 1) 日本における生物多様性保全に係る調査/保全のための行政施策や民間活動、人と自然の軋轢などの課題を理解し、自国の現状と課題を整理して説明できる。 2) GIS・リモートセンシング・データベース・Webシステムやその運用についての基礎的な技術や考え方を理解する。 3) GISリモートセンシングを使った保全地域、緩衝地域の設定(ゾーニング)及びその効果を評価するための基礎的な技術や考え方を理解する。 4) 生態学的な現状を把握するための科学的な調査や、ヒトとの軋轢の原因や状況を把握するための手法や考え方を取得する。 5) 地域住民や大学、NGOによる自然環境データの作成や、保全地域および緩衝地帯管理に向けた協働の手法や考え方を取得する。 6) 自然環境データの収集、蓄積、共有の技術や考え方を理解する。 7) 1)～6)で得られた知見を統合的に利用して、生物多様性を保全し生態系サービスを維持するための住民との合意形成や環境教育、施策等について提案できる。</p>	<p>【対象組織】 生物多様性保全施策やその実施に携わる国及び地方の行政/民間組織(NPO含む)</p> <p>【対象人材】 1) 生物多様性保全施策やその実施に携わる国及び地方の行政官、民間・NPO職員、研究者 2) 5年以上の実務経験を有する者 3) 25歳以上40歳以下の者 4) PCの操作がスムーズに行える者 など</p>	
内 容	本邦研修期間	2019/10/1～2019/12/4
<p>【事前活動】 インセプションレポートの作成</p>		担当課題部
<p>【本邦研修】 生物多様性の保全と生態系サービスの維持に必要な、保全地域及び緩衝地帯の確保・適切な配置・ネットワークの構築/管理・軋轢の低減を実現するため、①現状把握のための科学的基盤の強化、②情報収集・共有のためのシステム、③情報収集や保全地域管理への住民の主体的な参加促進、④関係機関の連携、⑤これらを政策に結びつけるしくみにつき、以下の講義・実習・視察を通じて学ぶ。 1) 日本の自然環境と生物多様性保全に係る調査/保全のための取り組み・施策 2) 調査データや自然環境関連情報の蓄積と共有のためのデータベース化 3) GISとリモートセンシングの基礎、GISを用いた情報の作成・表示・解析手法 4) 野生生物の現状やヒトとの軋轢の原因と現状を把握するための調査、モニタリング方法と調査結果のGISデータ化 5) GISを活用した保護区設定(GAP分析等)、多様性の評価の考え方と手法 6) 住民との情報共有・合意形成・環境教育・普及啓発の考え方と技術習得 7) 生物多様性保全と生態系サービス維持に向けたアクションプランの作成</p>	所管国内機関	
<p>【事後活動】 生物多様性保全と保全地域管理の技術、および課題解決に向けたそれらの活用計画の所属組織における共有</p>		関係省庁
	実施年度	
		<p>主要協力機関</p>
<p>特記事項及びホームページ</p>		